



九州作業療法学会 2021 in 熊本

Kyushu Occupational Therapy Congress 2021 in Kumamoto

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

｜プログラム・学会誌｜

学会会期 2021年 6月19日土・20日日

Web配信 2021年 6月1日火～30日水

会場 熊本テルサ 熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

学会長 内田 正剛

一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
(医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院)



九州作業療法学会 2021 in 熊本

Kyushu Occupational Therapy Congress 2021 in Kumamoto

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

｜プログラム・学会誌｜

学会会期 2021年 6月19日^土・20日^日

Web配信 2021年 6月1日^火～30日^水

会場 熊本テルサ 熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

学会長 内田 正剛
一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
(医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院)

主催 九州作業療法士会会長会

学会事務局

一般社団法人 熊本県作業療法士会

〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17 グランレーヴ壱番館103号室
E-mail: kyuot2021@gmail.com

INDEX

学会長挨拶	1
祝 辞	2
参加者の皆さまへ	3
座長の皆さまへ	4
発表者の皆さまへ	4
優秀演題の表彰について	5
日 程 表	6
プログラム	8
抄 録	
基調講(響)演	12
教育講演1～3	16
学術講演	22
シンポジウム1・2	24
特別企画セミナー	34
九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画	36
リーダー養成研修会	38
一般演題プログラム	42
組 織 図	52
広告・機器展示一覧	54
後援団体一覧	55
編集後記	56

学 会 長 挨拶

「響創」

～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～

九州作業療法学会 2021 in 熊本

学会長 内田 正剛

(医療法人堀尾会
熊本託麻台リハビリテーション病院)



令和元年6月最初に開催された九州作業療法学会を今回は、火の国熊本にて開催致します。令和3年1月現在で10,350人(九州各県士会会員数の報告より)となった九州の作業療法士における日々の臨床の実践報告やデータ収集と分析の積み重ねによる研究の成果報告の場を熊本にて開催できること嬉しく思います。

今、目指す姿は「地域共生社会」です。これは、制度や分野などの関係を超えて、地域住民も主体的に参画し、人と人、人と資源が全世代でつながる地域社会であります。そのためには、一人ひとりの生きがいある暮らしと、地域の特色と活性化をともに創っていく「共創」が必要だと言われております。

作業療法とは、定義(日本作業療法士協会2018)によれば、「健康と幸福」「生活行為」「目的と価値」を考慮した対象者の「作業(活動と参加)」を保証することとなります。また、その作業は、作業療法の専門分野である発達、精神、身障、高齢の各領域共に“人と作業と環境”の兼ね合いにより決まります。如何に、それぞれを評価分析し、調整・工夫をするのか?作業療法士に問われていると思います。

今回、学会テーマは「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～としました。来るべき社会への備えとして各分野が共創する令和(外務省訳: Beautiful Harmony)時代に作業療法の“人と作業と環境”のハーモニーを響かせ、新しい暮らしを創ってほしいと願いを込めて「響創」としております。各分野や領域を問わず、作業療法士が作業療法の実践検証について新しい発見を協議できる場にしたいと学術、教育講演やシンポジウムも企画・準備致しました。

コロナ禍であるため新しい生活様式としてオンライン開催とします。新しい環境に新しい作業様式(スタイル)を準備しております。皆さま、積極的に参加という適応をお願い申し上げます。

本学会内に作業療法の奏でるハーモニーが響き渡ることを期待しております。

最後になりますが、本学会の開催にあたり、ご理解とご協力を賜りました多くの関係者及び関係団体の皆様に感謝の意を表しますとともに、本学会がご参加頂いた皆様の活力や励みになり、さらなる新しい「競争」が生まれることを祈念致しております。

2021年2月吉日

祝 辞

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中村 春基



九州作業療法学会 2021 in 熊本が「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～のテーマで、内田正剛会長の下、開催されますことに心から敬意を表します。本学会が開催されます頃の COVID-19 感染状況は予測できませんが、「WITH コロナ」の状況にあることは確かだと思います。改めて、愛する人、家族、知人などと別れを強いられた方々に心から哀悼の意を表しますと共に、いまだに療養中の方、そのご家族、後遺症で日常生活に支障をきたしている方々にお見舞い申し上げます。

COVID-19 禍の生活を振り返りますと、不要不急の外出、三密（密集、密閉、密接）での行動自粛、リモートでの業務、研修会・講習会の WEB 開催、臨床現場の混乱、生活様式・コミュニケーション方法の変化、コミュニティーの崩壊、経済の減速、教育環境の変化等、生活の隅から隅まで新しい生活を強いられています。

私の生活を振り返りましても、先に挙げた様々な社会情勢や生活の変化により、足腰は衰え、巣籠生活で体重は増加し、何とかしなければと焦りの日々が続いています。しかし、出張がほぼ無くなり（不活発になり）、移動にかかる時間、経費が縮減し、リモート業務により退社時間が早くなり、結婚以来はじめての 6 時には帰宅する生活になりました。そのお陰で余暇時間ができ、「般若心経」の写経やアコースティックギターを 30 年ぶりに再開しました。まさに 65 歳からの手習いです。

「人は作業をおこなうことで健康になれる」は、作業療法の骨幹を占める考えですが、病院や施設を退院・退所された、障害をお持ちの元患者・利用者の方々の在宅作業を考えた時、COVID-19 禍の前後で当然違った行動様式になっていると思います。どうでしょうか？ そのように考えますと、病院、施設、在宅で提供する作業療法も当然変化していると思います。

本学会のテーマの下、COVID-19 禍での作業療法について議論が深まることを期待しています。

MTDLP もまさに「響創」を誰もができるようにするためのツールだと思います。しかし、MTDLP の事例報告 30 事例の目標を分析しますと、もともと作業の出来る人（響く人）を対象とした取り組みのみであったことが分かりました。私の経験ですと、一つの作業の成功体験により、次々とニーズが広がり作業の内容が変化していく方を多く見てきました。つまり、「響かない方」をどうして「響く人」に変えるかが作業療法士の専門家たる所以ではないかと思うのです。

本学会を通じて、真に患者・利用者の「響創」に基づく作業療法実践の起点となることを祈念しています。最後に本学会開催に当たりご支援いただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。大会でお会いできることを楽しみにしています。

参加者の皆さまへ

1. 学会参加費について

(1) 作業療法士 (○：加入 ×：未加入)

県士会	OT 協会		金 額
○	○	九州県内	6,000 円
		九州県外	7,000 円
×	○	九州県内	12,000 円
		九州県外	
○	×	九州県内	6,000 円
		九州県外	7,000 円
×	×	九州県内	20,000 円
		九州県外	

(2) 他職種等の参加費

	金 額
他職種	7,000 円
一 般	7,000 円
学 生	1,000 円

- ・学生は OT 養成コース所属の方のみとします。免許取得者の学生 (学部生・大学院生) の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

2. 学会参加受付期間について

- 振込での申し込み : 5月1日(土)～6月11日(金) 正午まで
- クレジットカードでの申し込み : 5月1日(土)～6月29日(火) 正午まで

3. お問い合わせ先

学会期間中のお問い合わせ、およびご不明な点がございましたら九州作業療法学会 2021 事務局までお問い合わせください。

座長の皆さまへ

プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう宜しくお願いいたします。また発表の形式につきましては以下を参照していただき、円滑な進行となりますようご協力をお願いいたします。

発表者の皆さまへ

【利益相反の開示】

近年、多くの学会で利益相反（Conflicts of Interest：COI）についての開示を義務づけるようになってきております。この状況に合わせ、九州作業療法学会2021でも、演題発表時に演題発表に関連する企業等とのCOIの有無および状態について申告することを以下に義務づけます。

【発表形式】

1. 発表方法

- ・採択された演題抄録、および事前にご登録いただくポスターを2021年6月1日～30日まで学会上でWeb配信し、参加者から事前に質問を受付けます（6月1日～15日頃を予定）。
- ・ポスターの本文と演題名・所属・氏名は演者に作成いただきます。
- ・学会会期は2021年6月19日～20日ですが、演題の発表は全て19日となります。
- ・発表当日はZoomを使用したフラッシュトークを1分程度設けます。その後、事前に受付けた質問への回答や、座長や参加者との質疑応答をして頂きます。
- ・発表は、Zoomアプリをインストールしたカメラ付きのパソコンにて行ってください。タブレット・スマートフォンを用いた発表はお控えをお願いします。
- ・機材環境により、発表形式に変更がある場合があります。変更がある際は、改めて学会Hpに掲載すると共に、演題採択者へメールにてご連絡いたします。

2. ポスターサイズ

- ・ポスターサイズは全体（演者番号含む）：縦1,350mm×横850mm、本文：縦1,150mm×横850mmです。

3. 発表ポイント

- ・（一社）日本作業療法士協会会員の方は、学会参加により生涯教育基礎研修4ポイント、また筆頭演者はさらに2ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告（25np）として登録できます。
- ・演題採択後、①2021年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込、および学会参加費の支払い、③発表までをもって、本学会で発表した事とします。

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象とします。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会で厳正なる審議を行った後、学会長が最終的に決定いたします。

〈優秀演題表彰審査基準〉

- テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
- 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
- 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
- 構成や表現などが優れている。

【発表・表彰】

受賞者の表彰は閉会式で行います。

日 程 表

1日目 2021年6月19日(土) 熊本テルサ

	第1会場 ZOOM	第2会場 ZOOM	第3会場 ZOOM	第4会場 ZOOM
9:30				
10:00				
11:00	10:15～11:45 演者受付	10:15～11:45 演者受付	10:15～11:45 演者受付	10:15～11:45 演者受付
12:00	11:50～会長挨拶 12:00～12:50 セッション 1 優秀演題発表 座長：山野 克明	11:50～会長挨拶 12:00～12:50 セッション 2 感染症関連 訪問 C 座長：森 英輝	11:50～会長挨拶 12:00～12:50 セッション 3 MTDLP 座長：藤木 昭彦	11:50～会長挨拶 12:00～12:50 セッション 4 自動車運転 座長：宮本 健太
13:00	13:00～13:50 セッション 5 地域 1 座長：五十嵐 稔浩	13:00～13:50 セッション 6 認知障害 座長：松浦 篤子	13:00～13:50 セッション 7 神経難病 機器援助 座長：中島 雪彦	13:00～13:50 セッション 8 高次脳機能障害 座長：宮城 大介
14:00	14:00～14:50 セッション 9 地域 2 座長：江原 加一	14:00～14:50 セッション 10 精神障害 1 座長：吉村 友希	14:00～14:50 セッション 11 高齢期 1 座長：安田 大典	14:00～14:50 セッション 12 脳血管疾患 1 座長：大塚 開成
15:00	15:00～15:50 セッション 13 運動器疾患 1 座長：亀尾 香珠代	15:00～15:50 セッション 14 精神障害 2 座長：山田 勝久	15:00～15:50 セッション 15 高齢期 2 座長：元田 真一	15:00～15:50 セッション 16 脳血管疾患 2 座長：宮本 忠司
16:00	16:00～16:50 セッション 17 運動器疾患 2 座長：山村 浩二	16:00～16:50 セッション 18 発達障害 教育 座長：益満 美寿	16:00～16:50 セッション 19 高齢期 3 座長：山崎 孝文	16:00～16:50 セッション 20 脳血管疾患 就労支援 座長：瀧野 浩二
17:00				

2日目

2021年6月20日日 熊本テルサ

	第 1 会 場 YouTube Live	第 2 会 場 ZOOM	第 3 会 場 ZOOM
9:30			
10:00	9:45～10:15 開 会 式		
11:00	10:30～11:30 基調講(響)演 これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～ 講 師：中村 春基 オーガナイザー：内田 正剛		
12:00	11:40～12:00 次期学会長挨拶	11:40～12:40 特別企画セミナー 夢をもって働こう！ ～わたしらしく輝くために～ 講師：茂木 有希子	
13:00	12:10～12:40 教育講演 1 やりたい作業の成功を可能にするアプローチ(CO-OP) 講師：東恩納 拓也 座長：松井 匠		
	12:50～13:20 教育講演 2 活動・参加のみかた ～作業を評価するポイント～ 講師：宮口 英樹 座長：高木 勝隆		
14:00	13:30～14:00 教育講演 3 最前線 運転と作業療法 講師：藤田 佳男 座長：今田 吉彦		13:30～16:30
	14:10～14:40 学術講演 脳科学と作業療法の響創 ～作業療法によって生じる脳の変化について考える～ 講師：村田 弓 座長：宮城 大介		リーダー養成研修会 県士会事業企画報告会 響創・共創・競争
15:00	14:50～15:50 シンポジウム 1 身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～ オーガナイザー：岩永 竜一郎 シンポジスト：岩根 達郎、増本 利信	14:50～16:50 九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画 臨床実習指導で 教育ツールとして MTDLPを活用する方法 講師：小林 幸治	～九州はひとつ！ 人がつながる 士会活動を語ろう!!～
16:00	16:00～17:00 シンポジウム 2 介護ロボットと作業療法の響創 オーガナイザー：北島 栄二 シンポジスト：2018・2019年度 介護ロボットニーズ・ シーズ連携協議協議会 熊本協議会 神野 一剛、爲近 岳夫、大塚 開成		
17:00	17:00～ 閉 会 式		

プログラム

基調講(響)演 6月20日(日) 10:30～11:30

第1会場 (YouTube Live)

[これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～]

オーガナイザー：

内田 正剛 一般社団法人 熊本県作業療法士会 会長
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院

講師：

中村 春基 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

教育講演1 6月20日(日) 12:10～12:40

第1会場 (YouTube Live)

座長：松井 匠 (桜十字病院)

やりたい作業の成功を可能にするアプローチ (CO-OP)

東恩納 拓也 東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻
作業療法士 博士(医学) 特別支援教育士

教育講演2 6月20日(日) 12:50～13:20

第1会場 (YouTube Live)

座長：高木 勝隆 (熊本総合医療リハビリテーション学院)

活動・参加のみかた ～作業を評価するポイント～

宮口 英樹 広島大学大学院医系科学研究科 作業行動探索科学分野 教授

教育講演3 6月20日(日) 13:30～14:00

第1会場 (YouTube Live)

座長：今田 吉彦 (熊本機能病院)

最前線 運転と作業療法

藤田 佳男 千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

脳科学と作業療法の響創 ～作業療法によって生じる脳の変化について考える～

村田 弓 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門
ニューロリハビリテーション研究グループ

[身の回りにいる気になる人の理解と対応 ～精神・発達・教育の分野から～]

オーガナイザー：

岩永 竜一郎 長崎大学 生命医科学域(保健学系)教授
長崎大学 子どもの心の医療・教育センター 副センター長

シンポジスト：

岩根 達郎 京都府立洛南病院 リハビリテーションセンター
専門作業療法士(精神科急性期)／精神保健福祉士

増本 利信 九州ルーテル学院大学 准教授

[介護ロボットと作業療法の響創]

オーガナイザー：

北島 栄二 福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科

シンポジスト：

2018・2019年度 介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会 熊本協議会

神野 一剛 熊本託麻台リハビリテーション病院

爲近 岳夫 熊本保健科学大学

大塚 開成 九州中央リハビリテーション学院

夢をもって働こう！ ～わたしらしく輝くために～

茂木 有希子 埼玉県作業療法士会 副会長
株式会社ハート&アート 代表取締役

臨床実習指導で教育ツールとして MTDLP を活用する方法

講 師：

小林 幸治 目白大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

県士会事業企画報告会

響創・共創・競争

～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

抄 録

これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～

中村 春基

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

九州作業療法学会 2021 in 熊本「響創」～作業療法が奏でる人・作業・環境のハーモニー～ が内田正剛学会長のもと開催されることを心から敬意を表します。コロナ禍での開催ではありますが、人・作業・環境ともに、新しい取り組みが必要な時と思います。本学会がその契機となることを願っています。

教育講演、シンポジウムのテーマを見ますと、脳科学、活動と参加、運転、主体性、対象者の広がり、介護ロボット等、これからの作業療法を考える上で、貴重な学びの機会となると思います。是非、私も皆様と時間と場を共有し、未来を「響創」して参りたいと思います。

講演では、事例と協会の活動を通して作業療法の未来について、私の考えを述べさせていただきます。

I：事例が最も大切

事例1は岐阜県在住、65歳、ギラン・バレー症候群の女性。発症後1月目に、経験1年目の作業療法士と理学療法士の治療に同行したが、まさに「寝かせきり」の状況で、関節可動域訓練のみを行う一方でゴールはADLの自立。しかも、発症してから1回も座位を取ったことが無いという。この作業療法はどうなっているのか・・・このような作業療法では未来はない・・・。人・作業・環境について養成校で学習しているはずだが・・・。そのような出会いから、フォローするようになった方である。

発症から2年と少し経過し、自宅の環境整備を行い、日中は独居の生活を送っている。現在、趣味の海外旅行への第一歩として、近くの観光地に一泊旅行をしてはどうかと、娘さんやご主人に働きかけている。COVID-19が無ければ実現できるのだが、終息するまでは、家庭内での活動維持を目標として支援中である。

事例2は関節リュウマチの女性、元の職場で担当した方で、退院後15年目の方である。年賀状での交流であったが、COVID-19を心配して、電話にて様子を聞いたりしている。家での生活をお聞きすると、お嫁さんは介護施設勤務、息子さんは病院のシンクの取り付け仕事ということで、感染予防の為に食事は自室で取り、外出は週1回のデイケアと月1回の外来受診、買い物もできるだけ人ごみの多い時間はさけ、必要最低限で済ませているとのこと。現在、千葉県に転居されたとのことで、COVID-19が落ち着いたら無事な姿を確認しに行こうと思っている。事例の話は尽きないが、作業療法を通しての支援は実に楽しい。これからの作業療法の未来 ～響きあい創造する力～の評価者は確実に患者、利用者、家族、地域であると考え。さて、皆様はどのように評価されていますでしょうか？

II：将来に向けた成果の紹介

- 1) 2021年介護報酬改定において、生活行為向上リハビリテーション加算の要件が見直されることとなった。介護給付費分科会で廃止論もなされた中において、正に、逆転ホームランである。これは、今まで地道に取り組まれたきた会員の取り組みがあればこそその成果である。改めて、協会介護報酬委員会および、多くの資料提供を頂いた会員の皆様に心から御礼申し上げる。「種」は再び蒔いた。MTDLPでの取り組みで「畑」も耕した。いよいよその果実を国民に示さなければならない。心身機能、活動と参加のバランスの取れた作業療法の提供は必須である。
- 2) 訪問看護ステーションでの人員配置においては、多くの会員の方々からご署名を頂き心から感謝申し上げます。ご存じの通り、配置要件は看護体制強化加算を算定する事業所に限定されることとなり、8万人と予想されたりハビリテーション難民を出さずに済んだ。今後もこのような提案がなされないよう、利用者側に立った地域リハビリテーションの在り方について提案していきたい。

Ⅲ：協会組織の再編成

協会は国へ提言を行い、会員の地位向上と国民の健康と幸福に寄与することが責務である。国の動きを見ると、介護報酬、診療報酬改定の基礎となる資料は、少なくとも2年前から準備され提案されていると感じる。そのように考えると、協会の活動はその1年前には動き出しておかないと取り残されてしまう。そのような、動きに対応するため協会組織の改編を行い、活動・参加、環境への対応を更に充実させていく。

2023年からは順次協会事務局内で各部長を専従雇用し、迅速柔軟な決定と活動を推進する体制を整備していく予定である。これと並行して、士会員＝協会員を実現させ士会活動を人材育成、渉外活動に傾注できる体制を構築して参りたい。

Ⅳ：中長期の取り組み

2020年から養成教育の新カリキュラムが施行されていますが、2025年には再度カリキュラム検討委員会が開催されることが決まっている。協会としては、修業年限4年以上にすること、研修の義務化等についての提案を検討している。また、研修の義務化については、現行の生涯教育制度の見直しが必要と考えている。士会、会員の協力無しでは実現不可能であり、今後検討を加速させていきたい。2020年度の協会活動はコロナ禍の中、受け身の活動に終始したが、2021年度は未来を見据えた活動の元年としたい。

最後に、九州作業療法学会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念している。



略 歴

昭和52年(1977)3月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 卒業
昭和52年(1977)4月	兵庫県社会福祉事業団玉津福祉センター附属中央病院
昭和59年(1984)4月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院
平成6年(1994)4月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院
平成18年(2006)4月	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部部长
平成22年(2010)4月	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部部长
平成27年(2015)4月	一般社団法人日本作業療法士協会 会長(常勤役員)

受賞歴

平成17年(2005)	厚生労働大臣 表彰
-------------	-----------

一般社団法人日本作業療法士協会活動

昭和60年8月(1985)～平成1年7月	理事
平成1年8月(1989)～平成13年7月	常務理事
平成13年6月(2001)～平成21年6月	副会長
平成21年6月(2009)～現在	会長

社会的活動

一般社団法人日本作業療法士協会(会長)、チーム医療推進協議会(副代表)、リハビリテーション機能評価機構(理事)、公益財団法人国際医療技術交流財団(評議員)、一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団(評議員)、公益財団法人訪問看護財団評議員、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会理事、公益社団法人日本脳卒中協会理事、日本訪問リハビリテーション協会(監事)等

著 書

脳卒中の在宅リハビリテーション(編集責任者)、作業療法各論・義手(リハビリテーション医学全書)、障害筋骨格系理学療法(系統理学療法)、義肢道具学(理学療法テキスト)、理学療法 MOOK 義肢装具・義肢、作業療法のとらえかた(糖尿病に対する作業療法)

Handwriting practice lines consisting of 25 sets of three horizontal dashed lines.

一般演題 プログラム

一般演題

セッション1 6月19日(土) 12:00～12:50

第1会場 (Zoom)

[優秀演題発表]

座長：山野 克明 (熊本保健科学大学)

SS-1 認知症患者に対する情動機能の評価法の検討

岩切 良子 日南市立中部病院

SS-2 統合失調症を有する慢性期患者に対し、病識獲得及び服薬意識向上を目指した取り組み～事例を通しての心理教育における効果と課題～

林田 浩司 医療法人さざなみ 鈴木病院

SS-3 重度障害を有する頸髄損傷患者の食事獲得に向けた取り組み～課題指向型アプローチを経験して～

松永 拓己 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

SS-4 義歯装着の有無が巧緻動作に及ぼす影響

吉田 実樹憲 医療法人せいわ会 聖和記念病院

SS-5 当院一般病棟および地域包括ケア病棟入院患者の作業機能障害に関する実態調査—Person-Environment-Occupation モデルに基づく特性分析—

舞田 大輔 医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院

セッション2 6月19日(土) 12:00～12:50

第2会場 (Zoom)

[感染症関連 訪問C]

座長：森 英輝 (くまもと成仁病院)

01 コロナに負けない！今できる活動を考える！～戦争体験朗読会を通して～

山部 望 介護老人保健施設 愛・ライフ内牧

02 新型コロナウイルス感染症「COVID-19」に対する職場での取り組み—ICTを使用した家族指導—

田中 龍太郎 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

03 在宅支援リハビリセンター推進事業における同行訪問に対する取り組みについて～追跡調査を実施して～

中村 雄太 医療法人 稲仁会 三原台病院

04 訪問型短期集中サービス事業発足までの変遷～自立支援型ケアの浸透を目指した天草ブロックの活動～

引地 大介 熊本県作業療法士会 天草ブロック

05 天草市独自の訪問型短期集中サービスにおける OT 同行訪問の実際と課題

松本 俊寛 熊本県作業療法士会 天草ブロック

06 当法人作業療法課の生活行為向上マネジメント浸透への取組み ―第二報―

小出 将志 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院

07 不定愁訴の多い利用者へ創作活動を導入し、
訴えの減少と余暇活動への参加頻度が増加した一事例

大迫 夏歩 医療法人 日章会 南鹿児島さくら病院

08 調理活動の再獲得に向け MTDLP を活用した脳卒中患者の一例
～母親としての役割再獲得への支援～

河野 尊誠 社会福祉法人恩賜財団 済生会みすみ病院

09 趣味活動(手芸)の再開が社会参加への動機付け、家族の介護負担軽減に
つながった一症例

上野 恵理 医療法人日章会 南鹿児島さくら病院

10 臥床傾向にある全般性不安障害の患者に対する退院支援
～行動活性化療法と生活行為向上マネジメントの活用～

小堀 牧子 医療法人横田会 向陽台病院

11 当院外来作業療法における自動車運転再開に向けた支援の現状
～運転再開した患者に着目して～

神田 龍太 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院

12 脳損傷者に対するビデオゲーム型ドライビングシュミレーターの使用経験

黒岩 亮佑 医療法人畏敬会 井野辺病院

13 発症から2年以上経過し、左上下肢操作でシミュレーター、
実車評価を通して運転可能となった一例

宮川 怜 医療法人桜十字 桜十字病院

14 軽度 USN 患者の drive simulator を用いた自動車運転の可否判定の経験
―HONDA セーフティナビ USN 評価ソフトの有効性―

今田 吉彦 社会医療法人 寿量会 熊本機能病院

15 自動車運転支援と家族支援

松下 幸久 医療法人桜十字 桜十字病院

[地域1]

座長：五十嵐 稔浩(済生会みすみ病院)

16 回復期リハビリテーション病棟退院後の社会参加と日常生活動作および
手段的日常生活動作の関係性について

平田 彩友美 社会医療法人 寿量会 熊本機能病院

17 地域共生社会創造へ向けたアプローチ
～農福連携における高齢者支援について～

畠山 和哉 社会福祉法人東陽会 特別養護老人ホーム りゅうぎんか

18 福耕プロジェクト
～熊本県作業療法士会による熊本地震復興支援～

田尻 威雅 一般社団法人 熊本県作業療法士会 事業部 事業部担当理事

19 令和2年7月豪雨における避難所仮設トイレの環境について

吉田 透 医療法人木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院

20 九州北部豪雨災害において JRAT-RRT として関わった
佐賀 JRAT 本部支援の活動報告

生田 敏明 一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院

[認知障害]

座長：松浦 篤子(荒尾こころの郷病院)

21 軽度認知症を呈した症例に対する服薬の自己管理に向けた取り組み

宮川 夏実 医療法人山部会 くまもと成城病院

22 認知症鑑別における Trail Making Test (TMT) の有用性

重藤 旭 医療法人社団 高邦会 高木病院

23 山口符号テストとファイブコグの関連性

福田 健一郎 医療法人栄寿会 真珠園療養所

24 当院入院患者の HDS-R と MoCA-J を用いた認知機能検査と FIM との関連性

松野 野々花 社会福祉法人恩賜財団 福岡県済生会大牟田病院

25 パズル塗り絵と認知機能低下の関連性について
ーアプリケーション(タイムスタンプ)と MOCA-J による検証

河口 万紀子 学校法人 立志学園 九州中央リハビリテーション学院

26 シーティング外来における介入内容の後ろ向き検討 第1報
～より良いシーティングを提供するために～

西田 真基 独立行政法人 地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 リハビリテーション部
独立行政法人 地域医療機能推進機構 宮崎江南病院 形成外科

27 個別性を活かした車椅子シーティングの重要性
～脊髄小脳変性症を呈した2例を通して～

馬場 大地 社会医療法人 春回会 長崎北病院

28 転倒を繰り返す患者の退院支援

副島 千聖 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院

29 MELAS 症候群に対する急性期病院での作業療法士の役割

高橋 弘樹 長崎大学病院

30 視覚と聴覚の中途障害者に対する点字を用いた趣味活動の獲得

吉川 千鶴 医療法人光心会 諏訪の杜病院

31 高次脳機能障害者の回復期リハビリテーション病棟における病識変化の経過について
～電子カルテを用いた後方視的検討を行った1症例～

宮脇 亘汰 汰社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター

32 失行症を呈した症例に対する ADL 向上に向けたアプローチ
～ストラテジートレーニングを取り入れて～

飯倉 萌絵 医療法人畏敬会 井野辺病院総合リハビリテーションセンター

33 症候性てんかん発作後に多彩な高次脳機能障害を呈した一例

原田 貴正 地方行政独立法人 大牟田市立病院

34 自己効力感が低下した症例に対する趣味活動への取り組み
～失語症を呈した感覚障害患者へのアプローチ～

高橋 弘樹 医療法人光心会 諏訪の杜病院

35 脳損傷者に対する運転再開後の運転行動と神経心理学的検査の比較

黒木 一気 社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

[地域2]

座長：江原 加一（熊本機能病院）

36 PTA 活動支援を通じた通所リハビリテーション利用者の社会参加

前田 憲志 医療法人清心会 服巻医院
集団作業療法を考える会「さんやまち」

37 プラン支援地域ケア会議の助言に対する振り返り

橋口 信洋 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

38 通所介護の活動が主観的健康感や生活意欲に与える影響

松岡 麻由子 株式会社リライブ リハデイ吉木

39 脊柱後側弯様変形者に対する片脚立位の解釈とデイケアだからこそできた作業療法

西村 彬 医療法人斎藤内科医院 通所リハビリテーションふれあい

40 運動器リハから通所リハへ移行した症例の治療効果の検討

兵働 弥大 医療法人尽心会 百武整形外科スポーツクリニック

[精神障害1]

座長：吉村 友希（熊本保健科学大学）

**41 精神科における高齢者に向けた作業療法音楽活動
～小集団での合唱を通じて～**

峯 信一郎 医療法人協治会 紅葉病院

**42 陽だまり散歩による効果
～心と体のリフレッシュ～**

朝岡 美槻 特定医療法人富尾会 桜が丘病院

**43 精神科療養病棟入院中にラクナ梗塞を発症した一症例
～定期的な体力測定の実践性～**

松葉 幸典 医療法人祥風会 甘木病院

**44 長期入院高齢者の体力測定結果と BMI、年齢、性別、薬物量が転倒に与える
影響について**

歌津 大誠 医療法人恵愛会 福岡病院

**45 個別認知リハビリテーションによる実践的介入
～精神科救急での取り組み～**

浦田 希 医療法人横田会 向陽台病院 医療コーディネート部

[高齢期1]

座長：安田 大典 (熊本保健科学大学)

- 46** ADOC を用いて関わることで行動変容が見られた症例
～役割再獲得に向けた心理・環境支援～
菅谷 仁志 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院
- 47** 麻痺手の不使用に対し、ADOC-H を用いた介入により行動変容に至った
脳梗塞の一症例
高木 魁 社会医療法人 長崎記念病院
- 48** 作業バランスの改善が意志に影響を及ぼしたアプローチ
山本 祐輔 社会医療法人北九州病院 北九州古賀病院
- 49** 役割獲得が行動・心理症状の軽減に至った症例
福井 綾 医療法人博愛会 介護老人保健施設 博愛苑
- 50** 目標が達成されるにつれ、妻としての役割に目を向け
その人らしい生活を取り戻した事例
中村 望実 社会医療法人共愛会 戸畑リハビリテーション病院

[脳血管疾患1]

座長：大塚 開成 (九州中央リハビリテーション学院)

- 51** 食事動作の運動実行と運動イメージ中における脳血流動態の検討
松尾 萌美 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 博士課程
長崎大学 子どもの心の医療・教育センター
- 52** 脳卒中患者の食事動作の改善を考える中で、身体所有感の階層性に注目し
考察を行った症例
有川 未紗 公益財団法人 健和会 大手町病院
- 53** 右手動作の拙劣さと両手動作の協調性障害を認めた左脳皮質下出血例に対する
上肢機能訓練の試み
川添 尚武 社会医療法人寿量会 熊本機能病院
- 54** 左上肢の食事動作への参加に向けて
鎌田 愛 医療法人桜十字 桜十字病院
- 55** 提示映像の違いにおける運動イメージ中の大脳皮質領域の活動
藤原 謙吾 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院
長崎大学大学院医歯薬学総合科学研究科 医療科学専攻 博士課程

[運動器疾患1]

座長：亀尾 香珠代 (九州中央リハビリテーション学院)

- 56** 手指創傷被覆材が関節可動域と曲げ難さに与える影響
被覆テープの種類で見たエアウォールの有用性
片山 智裕 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション部
- 57** 重度手根管症候群に対する固有示指伸筋腱移行による
母指対立再建術後の短期成績と後療法の工夫
竹部 裕也 医療法人慶仁会 川崎病院 リハビリテーション科
- 58** 上腕切断患者に対する能動義手導入により家事動作獲得を果たした一例
一障害受容に着目してー
濱島 唯 都城市郡医師会病院 総合リハビリテーション室
- 59** 習慣化した手内在筋優位な握り動作が改善された関節リウマチ例に対する
セラピィの経験
坂本 竜弥 医療法人伴帥会 愛野記念病院 手外科センター
- 60** 関節リウマチ性 MP 関節尺側偏位に対する軟部組織再建術後のセラピィの工夫
岩永 祐一 愛野記念病院 手外科センター

[精神障害2]

座長：山田 勝久 (熊本駅前看護リハビリテーション学院)

- 61** 活動内での目標の共有による主体性の向上
本部 葉 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
- 62** 感覚あそびを集団で実施して
船津 多万恵 医療法人横田会 向陽台病院 医療コーディネート部
- 63** 統合失調症患者への強みに焦点を当てた作業療法
丸目 佳菜 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
- 64** 精神科デイケア利用者の運動習慣と体力および作業ニーズとの関係
平澤 勉 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
- 65** 保護室利用患者への vdt MoCA 理論を用いた環境設定
～混乱のない生活リズム作りを目指して～
前田 大輝 医療法人見松会 あきやま病院

[高齢期2]

座長：元田 真一(ケアサポートメロン)

- 66** 自己管理表を用いた介入により行動変容がみられた糖尿病の一症例
森田 恭平 社会医療法人 長崎記念病院
- 67** 内部障害を呈した超高齢患者に対する急性期からの作業療法
～本人、家族との合意した目標の実現に向けて～
中村 俊貴 社会福祉法人十善会 十善会病院
- 68** 生活行為向上マネジメントを活用して調理動作の獲得ができた事例
下村 季衣 社会医療法人春回会 長崎北病院
- 69** アルツハイマー病患者における独居か同居かの世帯構成の違いによって生じる
日常生活能力指標の差の検討
吉浦 和宏 熊本大学病院 神経精神科
- 70** 音楽を用いた回想法が BPSD (行動・心理症状) に与える影響
澁谷 伸一郎 リハビリテーションセンター熊本回生会病院

[脳血管疾患2]

座長：宮本 忠司(熊本大学病院)

- 71** 小児に対する CI 療法の取り組み
～ Transfer Package を重視したことで、麻痺手の使用に変化が見られた一例～
竹下 晃 独立行政法人 国立病院機構 南九州病院
- 72** 脳卒中後の片麻痺患者に対して
ロボット療法と修正 CI 療法を組み合わせ合わせた一症例
西道 大貴 社会医療法人財団池友会 香椎丘リハビリテーション病院
- 73** 促通反復療法と Mirror Therapy の併用によって手指の随意性が向上し、
箸操作の獲得に至った脳梗塞右片麻痺の一症例
白川 楓 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院
- 74** 痙性斜頸、ジストニア症状を呈する症例への食事支援
～ボツリヌス療法とリハビリテーションの併用～
鯉渕 直子 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
- 75** 痙縮、関節可動域に関するエアプレーン型肩外転装具を用いた効果検証
谷川 圭介 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院

[運動器疾患2]

座長：山村 浩二 (リハビリテーションセンター熊本厚生会病院)

76 脊椎術後患者の糖尿病とADL・疼痛、在院日数との関係性

中島 史彦 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院

77 運動器疾患を呈したリハ介入中患者の栄養状態と日常生活・認知機能との関係性

高木 佳那 社会福祉法人 恩賜財団 済生会大牟田病院

78 重症熱傷患者に対し術後早期から介入した作業療法の経験

伊藤 光 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

79 上肢骨折を呈した認知症独居高齢者に対する多職種共働での取り組み

岩本 尚之 重工記念長崎病院

80 薬学部への復学を目指す頸髄損傷者に対する作業療法士の役割

岩下 裕造 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 別府重度障害者センター

[発達障害 教育]

座長：益満 美寿 (熊本保健科学大学)

81 不登校を呈し小児心療科に入院する子どもの特性について

琴岡 日砂代 長崎県立こども医療福祉センター

82 衝動性の高い男児に対する行動変容を目的としたアプローチと考察

松岡 弘樹 医療法人横田会 向陽台病院

83 保育現場で作業療法士が出来る事
～保育士との連携を通して見えたもの～

岩本 悠 社会福祉法人 おおぞら

84 臨床実習前後における客観的臨床能力試験の成績変化

桑原 由喜 学校法人向陽学園 長崎リハビリテーション学院

85 COVID-19対策下における学生の生活様式の特徴と生活満足度
～作業バランスを通して～

青山 克実 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

[高齢期3]

座長：山崎 孝文 (九州中央リハビリテーション学院)

86 急性期 OT の ADL への関わりの現状と必要性について
～脳血管疾患での食事場面を通して～

福田 恭子 飯塚病院

87 『ニューヨーク近代美術館で個展を開きたい』という夢に向けた小さな合意目標
～進行がんに対する障害受容と自己表現～

塩田 聖子 医療法人稲仁会 三原台病院

88 機能低下させる事無く在宅復帰を目指す
—療養スタッフと協業した機能向上対策と転倒防止対策—

川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー

89 脊椎圧迫骨折患者における、転倒歴と病前生活日常生活活動および FIM 利得の関係

田中 優衣 社会福祉法人恩賜財団 福岡県済生会 大牟田病院

90 生活空間の広がりに影響する事象の一考察
～短時間デイケア利用者の活動範囲拡大に向けて～

河野 めぐみ 医療法人長敬会 井野辺病院 総合リハビリテーションセンター

91 短時間通所リハビリテーション利用者の外出頻度と環境要因との関連
～予備的研究～

岸本 周作 医療法人長敬会 井野辺病院 総合リハビリテーションセンター

[脳血管疾患 就労支援]

座長：瀧野 浩二 (熊本総合医療リハビリテーション学院)

92 片麻痺手指に対する「リール式プリント」の紹介

加藤 貴志 医療法人長敬会 井野辺病院

93 就労支援における医療機関と企業・就労支援事業所間の情報共有化を目的とした
アンケート調査 ～脳卒中患者を対象とした回復期病棟での検討～

小西 由貴子 医療法人桜十字 桜十字病院

94 役割支援が主体的な行動へ変容した事例 ～医療と就労の両立支援を経験して～

有働 尚右 医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院

95 高次脳機能障害により回復期入院から復職するまでの支援が長期化した一例
ジョブコーチ支援と医療機関における就労支援の必要性

有田 祐典 医療法人桜十字 桜十字病院

96 サルコペニアと退院後の生活空間の関係

木戸 善文 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
三 役	学 会 長	内田 正剛	医療法人 堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院
	副 学 会 長	高木 勝隆	熊本総合医療リハビリテーション学院
	実行委員長	枅崎 高史	熊本リハビリテーション病院
学 術 局	局 長	西 聡太	介護老人保健施設 清雅苑
	副 局 長	爲近 岳夫	熊本保健科学大学
	企画部長	大塚 開成	九州中央リハビリテーション学院
	部 員	宮城 大介	青磁野リハビリテーション病院
		峯 真里	平成とうや病院
		田中 智寛	にしくまもと病院
		小手川 耕平	熊本保健科学大学
		岩永 知寛	向陽台病院
		山城 有一郎	弓削病院
		宮本 健太	株式会社グローバル介護サービス
		橋本 ゆりか	武蔵ヶ丘病院
		清田 輝	熊本託麻台リハビリテーション病院
		矢野 賞太	合同会社 6 L
	査読編集部長	坂田 亮	合志第一病院
	部 員	小林 志穂	熊本市立植木病院
		小牧 龍二	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
		長井 ひかる	熊本機能病院
		高木 達郎	株式会社 弘プラン デイサービスセンターだんだん
		寺本 聡司	サンセリテ月出
		中園 純子	菊陽病院
		野仲 泰良	熊本駅前看護リハビリテーション学院
		松本 明人	熊本医療総合リハビリテーション学院
		宮田 浩紀	熊本保健科学大学
	相 談 役	野尻 明子	清藤クリニック

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
運 営 局	局 長	西田 充征	熊本労災病院
	副 局 長	財津 岳士	済生会みすみ病院
	会場運営部長	那須 語	谷田病院
	会場運営副部長	立花 尚寛	山江老人保健施設
		本郷 一宏	介護老人保健施設 サンライフみのり
	懇親会・外周班 担当責任者	田尻 威雅	桜が丘病院
	懇親会・外周部 担当	中村 純	平成病院
	企業展示班 担当責任者	園川 卓	国立長崎医療センター
	企業展示班 担当	秋野 淳	熊本労災病院
		尊田 英二郎	高田病院
	受付クローク班 担当責任者	中山 彰子	くまもと成城病院
	受付クローク班	森下 梨葉	水前寺とうや病院
		松田 知子	認定 NPO 法人 とら太の会 計画相談事業とら太
	相 談 役	牛島 由紀雄	山鹿市民医療センター
		青山 和美	にしくまもと病院
事 務 局	局 長	松井 匠	桜十字病院
	総務部長	松尾 成一郎	桜十字病院
	部 員	松下 幸久	桜十字病院
	広報部長	上村 英輝	阿蘇やまなみ病院
	財務部長	佐野木 雄志	リハビリテーションセンター熊本回生会病院
	部 員	吉川 浩之	桜十字病院
	相 談 役	本田 直	九州中央リハビリテーション学院
		山野 克明	熊本保健科学大学

〈次期開催予定〉

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

会 期：2022年6月18日（土）・19日（日）

会 場：佐賀市文化会館
（〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10）

学会長：山口 洋一（白石共立病院）

主 催：九州作業療法士会会長会

九州作業療法学会 2021 in 熊本

発行者：九州作業療法士会会長会

事務局：一般社団法人 長崎県作業療法士会
〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17
グランレーヴ壱番館103号室
E-mail：kyuot2021@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



■ 学会事務局：

一般社団法人 熊本県作業療法士会

〒861-8045 熊本県熊本市東区小山2丁目25-17

グランレーヴ壱番館103号室

E-mail: kyuot2021@gmail.com

学会HP <https://kyuot2021.secand.net/>